

## 企画展 「Beautiful Japan 吉田初三郎の世界」

府中市美術館 24.05.18～07.07



《ポスター》 1930年 鉄道省

「美の国 日本」を世界に宣伝するために鉄道省が「初三郎」に制作を依頼した観光誘致ポスターで、富士山をバックにして桜が満開の中で微笑む和装美女の絵画である。

「吉田初三郎」(1884～1955)は、大正～昭和初期に鳥の視点からとらえた「鳥瞰図」で、3000点以上の全国の旅行案内図を制作した鳥瞰図絵師で「大正の広重」と呼ばれた。

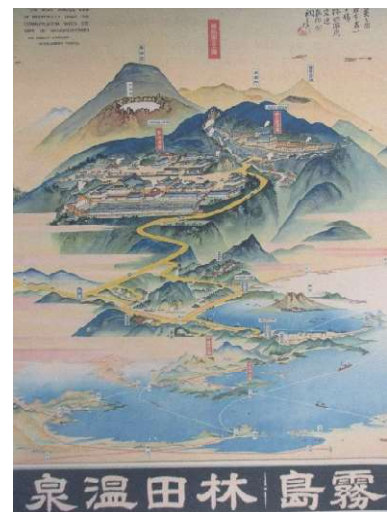
鳥瞰図制作工程は、①実地踏査写生：手で描くのではなく、足で描き、頭で描く絵。②構想の苦心と③下図の苦心は絵師自身が行い、④着色（画室の数名）、⑤装填・編集、⑥印刷の6段階からなるとされる。

「初三郎」が手がけた「鳥瞰図」は、実際の時計を正確に捉えたものではなく、大胆なクローズアップやデフォルメ（変形させ）を駆使することで、作る側が見せたいと願ういわば理想化された風景を表現するものであった。

つまり、画伯制作の「鳥瞰図」には、現実の景観を重ね合わせることで生まれる、現実には存在しない風景が描かれている。例えば、見えないはずのランドマークを描いたり、中心となる建物を極端に大きくしたり、あるいは広い範囲を湾曲させて画面に収めたりするなど、大胆なデフォルメを施す一方、鉄道の車両や桜の木などの、細部についても丁寧に描き込まれている。



吉田初三郎 《富士身延鉄道沿線名所鳥瞰図》（部分） 1928（昭和3）年



吉田初三郎 霧島国立公園《霧島林田温泉 交通鳥瞰図》1935（昭和10）年